

科目コード 126221a 配当学年 3・4

科目名 アニメーション論

教員名 有馬 純寿

**【授業の目的】**

アニメーションの制作技法や制作プロセス、日本のアニメーション作品の歴史、現在のアニメーション産業の動向を中心に、映像文化や映像産業の変遷ならびに映像文化と社会との関わりについて理解する。

**【到達目標】**

- ①アニメーション制作の工程や技法を理解し説明できる。
- ②アニメーション作品の歴史的な変化を理解し説明することができる。
- ③現在のアニメーション産業の動向や課題を理解し説明することができる。
- ④
- ⑤

**【授業概要】**

多くのアニメーション作品を鑑賞しながら、アニメーションの制作手法と日本のアニメーション作品ならびにアニメーション産業の歴史的な変化を中心に学んでいく。また、今日のアニメーション産業の動向や課題などから、映像コンテンツの現状や映像文化全般について、さまざまな視点から考察していく。

**【授業の進め方・授業手法】**

毎回多くのアニメーション作品を鑑賞しながら授業を進めていくほか、アニメーションに関連する資料映像を見ながらアニメーションの歴史的変化や、業界の現状を解説していく。

**【準備学習】**

- ・授業内で配布する資料を復習し、要点をまとめておくこと。(1時間)
- ・授業内で紹介するアニメーション作品を各自で見て、その作品の特徴を理解すること。また、授業期間に放送されているアニメ番組をいくつか選び、視聴しておくこと。(3時間)

**【授業計画】**

＜授業形態＞

この科目は集合形態と、オンデマンド形態(動画配信)をそれぞれ7回とする。

＜授業計画＞

- 第1回 セルアニメーションの制作方法(集合)
- 第2回 日米のアニメーションの違い(集合)
- 第3回 アニメーションの歴史1(初期のアニメーションと日本のアニメーションの黎明期)(オンデマンド)
- 第4回 アニメーションの歴史2(1960～70年代)(オンデマンド)
- 第5回 アニメーションの歴史3(1980年代)(オンデマンド)
- 第6回 アニメーションの歴史4(1990年代)(オンデマンド)
- 第7回 アニメーションの歴史5(2000年代以降)(集合)
- 第8回 現在のアニメーションの制作工程と職種(集合)
- 第9回 アニメーションの演出手法、期末レポートのガイダンス(集合)
- 第10回 アニメーションとCG(オンデマンド)
- 第11回 アニメソングの変遷(オンデマンド)
- 第12回 アニメと声優(オンデマンド)
- 第13回 アニメとコミック、小説(集合)
- 第14回 アニメ産業の現状(集合)

最新の作品・業界情報の紹介も行うので、内容が変更となる回が生じる可能性があります。また、紹介する作品・資料に応じて授業形態が変更となる場合がありますが、その際は授業やWebClassにてアナウンスします。

**【フィードバックの方法】**

各回の授業の内容に質問のある場合は出席カードあるいはWebClassのレポート欄に記入してもらい、次回の授業の最初に対応する。期末レポートに対するフィードバックはWebClassを通じて行う。

**【テキスト】**

教科書は使用せず。  
(テキスト ISBN)

**【参考文献】**

『日本TVアニメーション大全』(世界文化社)  
津堅信之『新版アニメーション学入門』(平凡社新書)  
増田弘道『アニメビジネス完全ガイド』(講談社)  
ほか、授業内で紹介します。

**【オフィスアワー】**

- ・4階の合同研究室前に掲示しているオフィスアワーの時間を確認してください。また、適宜相談に応じますが、その場合は事前にアポイントを取ること。
- ・WebClassでも質問を受け付けます。

**【担当教員からのメッセージ】**

現在の日本を代表する文化と言われているアニメーション作品についてさまざまな角度から考えていきます。過去の作品だけでなく現在のアニメーション作品も対象とするため、授業期間に放送される10月クールの番組などをいくつか選んで見ておくようにしてください。

**【履修上の注意】**

オンデマンド授業の回については、出席レポートの提出をもって出席とみなします。

**【実務経験のある教員による授業内容】**

**【ディプロマ・ポリシーとの関係】**

- 《思考・判断・表現》
- 1. 論理的で明瞭な思考と冷静な判断ができる力を持っていること。(論理的思考力)
  - 2. 自分の考えや思いを表現する力を持っていること。(自己表現力)
  - 4. 資料を批判的に検証し、事実を解き明かしていけること。
- 《技能(表現)》
- 1. 日本語で、自分の考えを口頭や文章でわかりやすく表現、討論できる力を持っていること。(日本語力)
- 《知識・理解》
- 7. 現代の文化への広い知識を持ち、それらを柔軟に理解できること。
  - 8. 子どものための文学、絵本、マンガ、アニメーションの歴史と現状についての知識を持ち、それらの特質を理解していること。

評価方法

日本のアニメーション作品とアニメーション産業に関する期末レポート  
平常点(出席カードへのコメント、WebClassの出席レポート)

評価割合(%) 到達目標との対応

72% ②③  
28% ①②③